

第1回

9月
29日
水

もう一度、大好きな馬と夢を掴みたい
～高次脳機能障害を乗り越えて

元JRA（日本中央競馬会）騎手、競馬評論家、競馬ライター つねいし かつよし 常石 勝義さん

第2回

10月
16日
土

牛島満と沖縄戦
～国内での最大で最後の地上戦から学ぶこと

元東京都公立小学校教員 うしじま さだみつ 牛島 貞満さん

令和3年度（2021年度）

一人称で語る自分史

講座

生きること

第3回

10月
20日
水

命の選別への警鐘
～出生前遺伝学的検査と胎児の人権

大阪医科薬科大学小児高次脳機能研究所長 たまい ひろし 玉井 浩さん

第4回

10月
27日
水

トラウマとともに、自分らしい生き方を見つけるまで
サバイバーが語る性暴力・DV・虐待

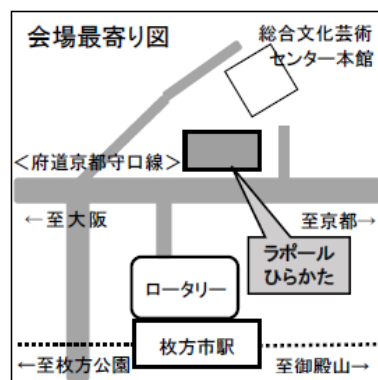
おやこひろば桜梅桃李代表 やなぎたに かずみ 柳谷 和美さん

- 会場 ラポールひらかた 4階 大研修室
- 時間 各講座 午後2時～4時
- 定員 各講座 先着72人
- 参加費 無料 ※1講座のみの参加もできます
- 申込 9月6日（月）午前9時から、電話または

ファクス・電子メールで受付開始
※ファクス、電子メールの場合は、以下の
必要事項を明記してください。

- 必要事項 ①講座開催日 ②氏名(ふりがな)
③電話番号
④保育（生後6か月～就学前児、各講座先着5人）、手話、要約筆記希望の有無
※保育・手話・要約筆記については、各回の開催日の1週間前までに要予約

- 申込・問合せ先 特定非営利活動法人 枚方人権まちづくり協会
電話 072-844-8788 FAX 072-844-8799
E-mail hirakatajinkenkyokai@wing.ocn.ne.jp



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、受付での検温、手指消毒、会場内でのマスクの着用等について、ご理解とご協力をお願いいたします。

主催 枚方市・枚方市教育委員会・特定非営利活動法人 枚方人権まちづくり協会

令和3年度
(2021年度)

講座

生きていること

講師からのメッセージ

第1回 9月29日(水)

「もう一度、好きな馬と夢を掴みたい～高次脳機能障害を乗り越えて」

元JRA(日本中央競馬会)騎手、競馬評論家、競馬ライター 常石勝義さん

二度の落馬事故による生命の危機を乗り越えたが、大好きだった騎手を引退しました。これからの人生、ただ“生きる”を“活きる”に変えるにはどうしたらいいか?自分は何をしたいのか?私には馬しかない。馬から“活きる”エネルギーや喜びをもらいました。これからも馬とともに歩みたいと願い、そして障がい者馬術競技に出会い、パラリンピックにも挑戦したいという思いが高まりました。障がい者としてパラリンピックに出場する資格があることを誇りに思っています。もし同じような障がいでも悩んでいる人がいれば、是非個性として見ることができればいいなと思います。いっしょに社会の障害物を乗り越えていきましょう。

パラリンピック東京大会出場はかなわなかったが、本場のドイツで修行し、パラリンピックパリ大会を狙っていきたくと思っています。

第2回 10月16日(土)

「牛島満と沖縄戦～国内での最大で最後の地上戦から学ぶこと」

元東京都公立小学校教員 牛島貞満さん

戦争は最大の人権侵害です。人々が生活している住民地域が、戦場になるとどのようなことが起きるのか、国内での最大で最後の地上戦である沖縄戦から学びます。

住民犠牲の実態となぜ住民の死者が兵士を上回っているのかを住民証言や資料を基にして明らかにします。

第3回 10月20日(水)

「命の選別への警鐘～出生前遺伝学的検査と胎児の人権」

大阪医科薬科大学小児高次脳機能研究所長 玉井浩さん

医学の進歩は様々な恩恵を人類にもたらし、結果として人の寿命は大きく伸びることになりました。しかし、脳死と臓器移植、ゲノム編集技術とデザイナーベビー、母体血を用いた胎児遺伝子検査と出生前診断など、その科学技術の進歩に対して生命倫理の議論が追いつかない状況となっています。今回は、NIPTと呼ばれる母体血による胎児の遺伝学的検査を中心に検査の本質と国で議論されている今後の方向性についてお話しします。

第4回 10月27日(水)

「トラウマとともに、自分らしい生き方を見つけるまで

～サバイバーが語る性暴力・DV・虐待」

おやこひろば桜梅桃李 代表 柳谷和美さん

幼少期の性暴力、虐待による自尊感情の低さから自暴自棄な思春期を過ごし、デートDVも受けて、長年ひとりで苦しみました。

子育てカウンセリングを受けた事をきっかけに、「私は私のままでいい」と自分を認められるようになり、「苦しみを知っている私だから出来ること」をつたえようとカウンセラーになりました。私の経験を語ることで、「誰も、加害者、被害者にしない」社会づくりのきっかけになればと思います。